

---

# 彼らは変化を望んでいる

柿炒り

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

彼らは変化を望んでいる

### 【コード】

N9336Y

### 【作者名】

柿炒り

### 【あらすじ】

彼らにとっての日常は変化しないらしい。彼ら一人一人の力では、変化は起きないらしい。何かに恐れていた、トラウマを持つ少年少女のお話。

プロローグ(前書き)

プロローグ

## プロローグ

中学2年生のことだ。

俺はかつて、自殺しようとしていた。理由は忘れた。多分、生きることには飽きたとか、そんな理由だった気がする。

遺書も書いた。自分の自殺の理由もそれに書いていた。そのほか、家族に伝えたいこととか。

自殺の方法はリストカットにしようと思った。

でも、僕はリストカットで本当に死ぬかどうか疑ってた。手首なんか切つても、すぐに血が固まるんじゃないか？そう思った僕は、腹部を刺すことにした。

カッターなんて安易なものではなく、包丁で。それなら、深く刺さる。

そして、自宅にて実行。

そして俺は、高校生となった。

なぜ、あの時死ねなかつたんだろう。

今、それをとてつもなく後悔している。

現在昼休み。

教室にて。

「こっ、こつちへ来なさい！」

担任が教室の中央にいる俺に向かって言う。その表情は明らかに怯えているようだった。大人がだらしねえ。

俺の目の前には、4人の生徒が転がっていた。

鼻血を出している生徒、骨が折れて、不自然な方向に手足が曲がっている生徒。死んでんじゃね？っておもっ奴もいる。全員に共通していることと言えば、気絶していること。

このくらいの説明でわかるだろ。こいつらがこんなボロボロなのは俺のせい。

「はあ……やっちゃったな」

「は、速くこつちに来なさい！その子達も……が!？」

生徒の悲鳴。主に女子。

担任にめがけて椅子を投げた。クリーンヒット。あたりどころが悪かったのか、後ろへ崩れ落ちた。

「うっせーんだよ……てめーが来ればいいだろうが……」

隅っこによつてさらに怯えている他の生徒に、聞こえるかどうかの声で静かに行った。

俺はしゃがみこみ、倒れているやつを眺めた。

心の中でつぶやいた。

ごめんな、全部俺が悪いんだ。

俺が機嫌が悪かったせいなんだ。お前らに悪いことなんてない。ごめんな、もし、その後無事だったら、俺を恨んでも構わない。俺のせいで、こいつらはこんな目に……………。

俺がいるから……………。

今度是可以るかな……………できるよな。

「ごめんな、みんな、ごめんな……………」

俺はそうつぶやき、窓の方向をむいた。

「亮太……………！」

横から声がして、顔だけそっちの方向へ向かせる。そこには、恐れで端っこに集まる生徒の群れの中、一步前に出ている生徒がいた。

恩田智樹。親友で話やすいやつだ。でも今話しかけて欲しくない。

「亮太、なんで……………」

「……………ごめん。俺がいるから」

「……………亮太？」

俺は小さく智樹に微笑み、走った。

「亮太！」

「おい！」

「ぎゃあああああああああ！」

ああ。  
空が綺麗だ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9336y/>

---

彼らは変化を望んでいる

2011年11月27日22時54分発行